

INTERIOR DESIGN

インテリアデザイン

開発初期段階からこだわりを持って目指した 走るための機能と高い質感の両立

デザイン推進部 デザイン主任:浜田圭

「Concentration (集中)」——「ランサーエボリューションX」のインテリアで目指したのは、走りへの集中力を高め、ドライバーへの負担を軽減する機能的なコックピットの創出です。

従来スポーツカーといえば、タイトな室内空間といったイメージがありますが、「ランサーエボリューションX」のインテリアは、できるだけ快適な居住空間を提供し、余分なストレスを解消する事でドライビングに集中しやすい状態を作り上げることを狙いました。ひとつひとつの機能部品についても、歴代モデルが培ってきた造形を進化させながら、究極のスポーツ走行時の使用を考慮するとともに、日常の使い勝手にも配慮しました。

ドライバーがもっとも頻繁に目にするインパネの基本形状は、スポーティで開放感のあるアーチ状のフォルムを採用。使用頻度の高いセンター操作パネルはよりドライバーに近い位置に、外側は乗員の足元空間を広くとるよう設計しました。またスポーツ走行中の俊敏で確実な操作に対応すべく、ステアリングホイール、シフトインジケータパネル、メーター、シート等、機能部品の細部の形状・表面処理には徹底的にこだわりました。

例えば、ステアリングホイールはグリップ部の本革縫い合わせに平行ステッチを用い、操作時に手の中を抵抗感なくすり抜けるよう配慮するとともにスポーティさも表現しています。またツインクラッチSSTのシフトインジケータパネルは、シフトノブにM/T同様

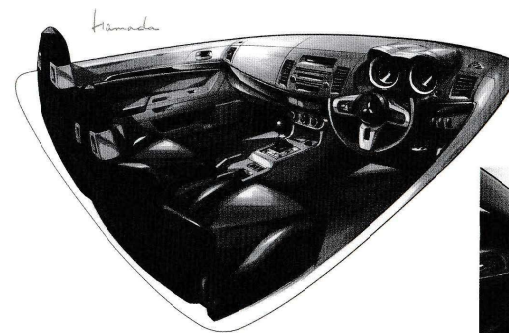
のレザー調ブーツを採用する等、「意のままの操作」をイメージさせるデザインとしています。

専用のハイコントラストメーターは指針0位置を真下とし、タコメーターを左に配置することで高回転域視認性に配慮しました。レカロ社と共同開発した専用シートも、サポート性を重視しながら乗降性にも配慮したクッション特性となっています。

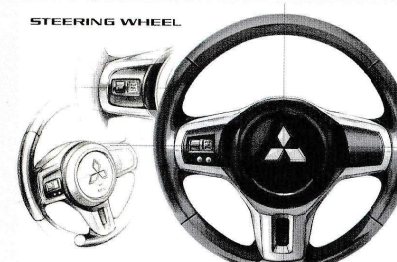
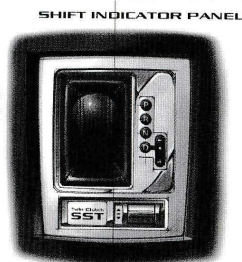
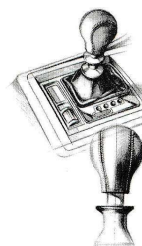
さらに「ランサーエボリューションX」では、こうした機能部品にシルバーやメッキによる加飾を施し、「質感の向上」にも気を配りました。走るための機能と高い質感の両立を開発の初期からこだわりを持って目指したことにより、インテリア全体に質の高い走りを感じさせる美しさ、上質さを表現することができました。レースシーンで活躍する一方で、都会的な街並みにも美しく映える「ランサーエボリューションX」は、所有する喜びを満たす超高性能スポーツセダンとして、純粋にスポーツカーの走りを望むお客様をはじめ、幅広いニーズに対応できると自負しています。

高い動力性能と高い質感、機能性を持つ「ランサーエボリューションX」は世界に君臨するスポーツカーにも決して引けを取りません。ぜひ一度実際に見て乗って体感して下さい。一人でも多くの方に世界最高水準の超高性能スポーツセダンならではの高いスピリットと質感を感じていただきたいと思います。

インテリアデザイン



機能的で開放感のあるアーチ状のフォルムをインパネに採用。ドライバーの走りへの集中力を高めるとともに、スポーツ走行中の俊敏な操作に対応できるよう、細部の形状、表面処理を工夫しています。



「ツインクラッチSST」のシフトノブは、M/Tと同形状を採用。またスポーティなレザー調ブーツとのコンビネーションで「意のままの操作」をイメージさせています。

グリップ部には、握り心地のよいスモースレザーを使用。縫い合わせ部には、俊敏なステアリング操作時にも手の中を抵抗なくすり抜ける平行ステッチを採用しています。